

ドラマCD お兄ちゃんはおしまい！

2018/02/15 初稿

2018/02/17 二稿

原作：ねことうふ

脚本：ねことうふ

かわこしたかひろ

【登場人物】

まひろ

／ 高野麻里佳

みはり

／ 石原夏織

かえで

／ 金元寿子

ミハル

／ 石原夏織

下着屋の店員

／ 飯沼南美

喫茶店の店員

／ 石川凜果

エロゲボイス

／ 河津玲奈

■第1話『まひろとイケない身体』

まひろモノ「ある日目が覚めたら女の子になっていた」

SE…部屋の中の環境音。まひろの寝息。もぞもぞ寝返り

まひろ「……むじゅむじゅ……」

SE…もぞもぞと布団の中で動く音、やがて止んで

まひろ「………むう、もう昼か……」

SE…布団の上で起き上がる

まひろ「ふわぁ…今日もよく寝た………ん？」

「ホ、ホ、あーあー、…なんか声が変わだぞ。

風邪かな…そついや頭も重いような………うーむ」

SE…髪が音を立てる

まひろ「………うわっ、なんだこのモサモサは」

SE…髪を手に取り、ひっぱる

まひろ「いであでであー………って…これ…オレの髪ー？」

なんだこりゃ…腰まで伸びてるぞ………！？どつりで重いわけだ…

…って、それより鏡っ！………は部屋に無いし………そうだ、スマホで！」

SE…スマホで自撮りして確認

まひろ「これは………女の子だ、誰ー？…オレー？」

まひろモノ「いやいや落ち着け……」

オレ、緒山まひろはエロゲを愛する孤高の自宅警備員。

もちろん男だ。このような美少女であるはずがない！」

まひろ「………そうか、特殊メイクー…って………身長も縮んでるよな…

それに……このささやかなふたつの膨らみ………」

SE…ふにゅん、と胸を触る効果音

まひろ「お………」

SE…ふにふにふに

まひろ「ふ、ふおおお……」

「これが…本物……なのか？……わからん……触ったことないし…。
そつえば……下は……どっになってるんだ……？」

SE：鼓動（ドクンドクン）

まひろ「か……確認だ……（じつり）確認……するだけ……」

SE：スポンをまさぐる音

SE：早まる鼓動

SE：バーンと勢いよくドアが開く

みはり「お兄ちゃんおはようー」

まひろ（少し間があって）「ヒヤッ……」（息を飲む感じ）

SE：コミカルな空気に

まひろ「…や、いやっ！ まままだ何も！ ……じゃなくて！

あの……オシ……ッ」

みはり「……………」

まひろ「ち、ちち、違うんだ！

これは……抑えられぬ未知への探究心というか……！」

みはり「ほー、ほーほー」

まひろ「お…おい…？」

みはり「ちょっと見せてね」

SE：下着ごとスポンを下ろす

まひろ「うひゃっー？」

みはり「…………ふーむ、……………するする……………」

まひろ「……………するするー？」

みはり「うんうん、まずは成功ね。あ、もう穿いていいよ。」

まひろ「な、ななな……」

SE：スポン履く

みはり「それにしてもお兄ちゃん、すっかり可憐らしくなっちゃって……」

まひろ「…………み、みはり……」

みはり「うーん、見た目は中学生…ってどこかな？」

まひろ「……もしや……一服盛ったな！」

みはり「にひひ。夕食にちょこっとね」

まひろモノ「こいつは緒山みはり。飛び級で大学に入り、

怪しい研究をしているおかしな妹だ」

まひろ「お、おまえ……なんてことを…。兄をなんだと思って」

みはり「ひきこもりのクズニート」

まひろ「うッ」

SE：グサッ

みはり「もう二年も外に出ないでいかがわしいゲーム三昧…
そろそろ働いてもらわなきゃ」

まひろ「は、働けって…こんな姿にされて……ハッ」

まひろ（想像）「みんな今日も配信見てくれてありがとう！
えー？もっとみたいのお？ふふ、ここからは有料です●」

まひろ「…ま、まさか…身体で稼げと……ー！？」

みはり「違っわー！」

みはり「はあ…治療よ治療、薬の実験！経過観察させてってこと。
心配しなくても薬が抜ければそのうちに元に戻るし。
この際しばらく楽しんでみたら？ 女の子の生活●」

まひろ「お…女の子の……」

みはり「それに…生活環境が変わればきっとお兄ちゃんも……」

まひろ「ふ……ふふふ……」

みはり「……お、お兄ちゃん？」

まひろ「そこまで言うなら仕方ない……」

お言葉に甘えて楽しませて貰おう……女の子の…夜の性活をな！」

SE：マウスクリック音、PCゲームを起動する。（起動ボイス？）

みはり「って……結局エロゲーなのおー！？」

まひろ「ふはは、紳士の嗜みだ！ほーら、早く出てった出てった！」

みはり「……………（呆れ）。そうでお兄ちゃん、ひとついいこと教えたげる…」

まひろ「ん？なに？」

みはり「女の子の快感ってね、男の１００倍くらい凄いだって」

まひろ「……………へ？」

みはり「もしお兄ちゃんが急にそんなの体験しちゃったらあ……

刺激が強すぎて……………頭がパーになるから、気をつけてね●」

SE：部屋のドアが閉まり、みはりが去っていく足音

SE：エロゲボイスの前に毎回クリック音

まひろ「……………ぱ……………ペア……………」

エロゲ「あっ、あっ、あっ」

まひろ「……………う……………」

エロゲ「だめ…そんなの、恥ずかしい…………」

まひろ「……………う……………」

エロゲ「いやっ、ああっ、らめーっ●」

SE：エロゲーを終了する。前のボイスの途中でぶつ切りとかで

まひろ「う……………生殺しだあ……………」

SE：日が変わって翌朝。ドアが開く音

みはり「お兄ちゃんおはようー！」

まひろ「ほけ……………」

みはり「どとうしたのー？死んだ魚みたいな顔して…」

まひろ「うつ、うつ……………突然夜の楽しみを奪われて…………

生きる氣力を失った……………もう死んだも同然だあ……………」

みはりモノ「うわあ、めっちゃ効いてる……………」

みはり「ほ……………ほらー！折角だしさ、この機会に何か新しいこと始めてみたら？

例えば……………資格の勉強とか」

まひろ「資格…かぁ…」

SE…ふとんに潜り込む音

まひろ「取るか……一級在宅士」

みはり「て、手強い……」。

……はぁ、そう簡単には、いかないか。」

(BGMやむ)

SE…別の日、まひろの部屋

まひろ「うっ……うっう……」

みはり「どうしたの、お兄ちゃん」

まひろ「みはり……オしはもうダメだ……」

果て無い禁欲生活でいよいよ間違いを犯しそうなので……

どうにも気分を萎えさせようと、

昔間違えて買ったBLゲームで遊んでみたら——ちょっと興奮した」

みはり「うわぁ………け、けどまあいいじゃんー今は女の子なんだし……」

まひろ「良くあるかー!」

みはりモノ「趣味嗜好まで女性化してきてるのかしら…」。

この前無理矢理着させた女の子の服も

最近はまんざらじゃなさそうだし……

BLはちょっと予想外だけど」

みはり「…そうだ、気分転換したいなら良い方法があるわよ」

まひろ「えっ!」

みはり「ただ、お兄ちゃんにはかなり難しいかも……」

まひろ「なんでもする! 教えてくれ……!」

みはり「それは——スポーツよ!」

まひろ「………無理だろッ!お前、自宅警備員を何だと思ってる!」

みはり「なんでそこで偉そうなの……」

…ほら、外に出るいい機会じゃない」

まひろ「やだやだ！ 日光で灰になるー！」

みはり「吸血鬼か……じゃあ、部屋でB」沼に沈む？」

まひろ「……うつ！ うつ……うつうつ……」

SE：場面転換 玄関のドアを開けて、外に出る

まひろ「うつ……眩しい……！」

まひろモノ「二年ぶりの外出がこんな理由になるなんて……」

みはりモノ「ありがとう、ボーイズラブ……！」

みはり「…さあお兄ちゃん！軽く走って気分スッキリ……」

まひろ「ま、待ってえ……！せめて……一緒に……」（怯えながら）（キラキラ）

みはり「お、お兄ちゃん……」

みはりモノ「なんかかわいい……」

みはり「……うんうん！最初からそのつもりだからね♥」

まひろ「うん……」

みはりモノ「はは……これじゃあもう、どっちが妹なんだか……」

SE：場面転換 河原沿いのランニングコース

みはり「じゃあこの辺りで軽くジョギングね。川沿いのコース、気持ちいいよ」

まひろ「は……はい……」

SE：走り出す二人

みはり「いっちに、いっちに……」

まひろ「はあ……はあ……はあ……」

ちよ……ま……みはり……！ 速いって……！」

みはり「あ〜ごめん、体力落ちてるよね……いろんな意味で」

まひろモノ「……万全でも追いつけないっての」

SE：足音が遠のきモノログと回想へ

まひろモノ「——みはりはオしとは違って良く出来た妹だ。」

まひろモノ「昔から運動が得意で、中学では陸上の大会で記録も残している」

まひろモノ「もちろん勉強も拔群。」

「こんな妹がいて羨ましいって？？とんでもない！

『みはりちゃんって凄いいねーきっとお兄さんも素敵なんだろうなあ』
そんな声と共に、必然と厳しくなる周囲の視線。

優秀な妹の兄という重圧感…。

そうしてだんだんオしは……」

SE：回想アウト 足音が戻る

まひろモノ「そのあげく、女の子の身体にされて妹のおもちゃに……はは……」

まひろモノ「……でも実のところ、最近なんだか気分が軽い。

自分が身の丈に合った位置に収まった感じがする」

SE：足音のペースが落ち始める

まひろモノ「もうお兄ちゃんはおしまいにして、いっそこのまま……」

SE：足音のペースが更に落ち、やがて止まる

みはり「……お兄ちゃん？」

まひろ「……………みはS」

まひろ「乳首が痛い……」

みはり「……………へ？……あ、なんで着けてないの！？ちゃんと渡したのに！」

まひろ「だ…だって……………アしだけではどうしても抵抗が……

最後の「線っていつか……」

みはり「ちゃんと着けないと走って擦れるし…将来垂れちゃうよー！」

まひろ「知るかー！」

みはり「はあ……………でも丁度いいか。今から買いに行きましょう、ブラジャー」

まひろ「……………へっー？？」

SE：場面転換。下着ショップへ移動。ガヤガヤ

まひろ「し…下着売り場…？？お、おい、入っちゃマズってー！」

みはり「いいでしょ、女の子なんだから。ほら、これとかかわいいよ」

店員「いらっしやいませー」

みはり「あ、店員さん！ この子、初めてなんです。
教えてあげてくださいー！」

まひろ「……へえー？」

店員「おまかせください。では試着室のほうへ」

SE：連行されて声が遠くなっていくまひろ

まひろ「え…うそ…たっ…助けてみはりー！ー！」

みはり「頑張ってーまひろちゃんー！」

SE：試着室のカーテンが閉まる音。メジャーを伸ばす音など

店員「じゃあ測りますねー」（キュッ）

まひろ「うひゃっー！」

店員「ちょっと触りますよー」（むにっ）

まひろ「え…ちょっとひうつー？」

店員「ほら、こうやって…お肉をあつめて…」（むにむに）

まひろ「あ…あっ……らめえーッー！ー！」

SE：更衣室のカーテンが開く音

みはり「どう？ ちゃんと着けた？」

まひろ「うう…」（チーン）

みはり「お、いいじゃん、スポブラー！」

まひろ「う、ううう…自己同一性の危機だあ…」

SE：場面転換、まひろの部屋、満身創痍のまひろの足音

まひろ「よ、ようやく帰って来れた…愛しの我が家よ…」

SE：ポフッと布団に倒れ込む音

まひろ「つ、疲れた…すう…すう…」

SE：そのまま寝息を立て始める

SE：ドアが開く音

みはり「お兄ちゃん、先にシャワー……って寝てるし……
もう、布団かけないと風邪引いちゃうよ。」

SE：布団をかける音

みはり「ふふ……今日は頑張ったねお兄ちゃん。一步前進、かな。」

SE：ゆっくりのドアが閉まる音

まひろモノ「オしが女の子になってから数日が経った。

遺憾ながらいまだもとに戻る様子は無い……

だけこの生活は、以前に比べてすいぶん刺激的だ。
妹の妹ってのも案外悪くない——かもしれない」

みはり「お兄ちゃん！ ちょっとお化粧してみない？」

まひろ「ひえっ……」

みはり「ほーら、怖くない怖くない」

まひろ「う、うう……」

まひろ「やっぱり早く元に戻して〜！」

「BGMが大きくなって、おわす」

■第2話『まひろとロールプレイ』

SE：ゲームの音楽(MMORPG)、マウスクリック音、効果音など

まひろ「よっ……はっ……！ じのっ……」(ゲームしてる)

SE：扉が開く音。

みはり「お兄ちゃんおはようー！」

まひろ「…ん？あー、おはよー…」(気のない返事)

SE：ゲームの音が続く。

まひろ「うあっと……！

……うん、よしよし……」(ゲームしてる)

みはり「ちょっとちょっと……

珍しく起きてると思ったら、朝からゲームなの……？」

まひろ「なにい？ おいおいみはり、みくびるなよ。

……昨日の夜からだー！」

みはり「……………」(呆れ)

まひろ「エロゲが封印されたから、代わりにネトゲを始めたんだけど、

終わりが無いから無限に遊べてしまう……。

これは悪魔的だあー！」

みはり「もぐ、徹夜なんて身体に悪いよ？

お肌も荒れちゃうし……女の子なんだから」

まひろ「女の子扱いするなぐっっ！」

みはりモノ「これじゃあエロゲのほうがまだ健康的かも……

……いや、それは無いか」

みはり「……はあ。まあいいわ。

私今から買い物行くけど、晩ご飯何か食べたいものある？」

まひろ「晩ご飯？ お肉！ やっぱ肉だなー！」

みはり「ええー、昨日もハンバーグだったじゃない……」

まひろ「知ってるか、みはり？」

ウシは処女の肉が一番美味いんだって！」

まひろ「黒毛和牛のステーキにしよう！ 霜降りがいいなあ……
あ、しゃぶしゃぶはダメだぞ。旨味が全部逃げるって
この前読んだ漫画で言ってたし」

みはり「ええ、なにそのお肉への情熱」

まひろ「あ、それにコーラと……何か手が汚れないお菓子！
ゲームしながらつまむやつな。

あと目薬とか……ホットアイマスクもいいなあ。
やっぱ目が疲れるからさあ。他にはえーっとお………」

みはり「ちょ、ちょっとお兄ちゃん！ そんな一度に言われてもお……
……じゃなくてっ。遠慮ってものは無いのー？」

あんまり言いたくないけど、少しは立場というものを……」

SE：キラキラ音をかぶせながら。

まひろ「おねが〜いっ」（媚び）

みはり「……ふえっ……！（おもわずときめく）
い……いやいやいや！ そんな可愛い子ぶっても——」

まひろ「……だめえ〜？」

みはり「う、うう〜っ！……はあ、仕方ないなあ……。
もう……今回だけなんだからね……？」

SE：扉がしまり、みはりがにやけながら去って行く

みはり「ふふ、ふへ、ふへへ……」

まひろ「おお……効果はバツグンだ……！
うーむ、やってみるもんだなあ。

ふふふ……これは良い技を覚えたぞ。
うんうん、使える武器は使っていないと」

SE：マウスクリック音のあと、ゲームの音楽再び。

まひろ「……さあて、邪魔者もいなくなったところで、
気を取り直してネットゲ再開……！」

SE：カチカチッ、カチカチッ

まひろ「ふわぁ……ふう……」

とはいえ流石にちょっと眠くなってきたかも……」

SE：カチ……カチ……

まひろ「……んんー……むにゃむにゃ……」

そのまま寝落ちして夢の中へ。寝入っていく演出、効果音など。

SE：雑踏（ザワザワ）

まひろ「………んん！？ なんだここは………？」

見覚えのあるファンタジー風の街並み……

ああ、今やってるネットゲかあ！

なるほど、寝落ちして夢の中ってわけだ………ハッ！」

SE：急いで自分の胸を確かめる。もぞもぞっ、ムニ…ムニ…

まひろ「うつ……このやわらかな感触……」。

夢の中でも女の子なお？何故だあ……」。

はぁ、嘆いても仕方ないか……」。

あ、そうだ、どうせ夢なんだし、

ここは敢えてかわいい女の子キャラを演じて
みはりを倒す練習にしようかな。

うむ、これこそロールプレイってやつだ！

……いやいや、ネカマじゃないし！」

SE：誰かが走って近づいてくる

ミハル「まひろちゃん！」

まひろ「うええっ！？ ……だ、誰！？」

ミハル「やだなあ、僕だよお」

まひろモノ「うつむ……まったく知らん！

でもステータスの表示を見る限り、

どうやら同じギルドの仲間みたいだな。

少年剣士の……名前はミハルかあ。

うええ、なんかみはりっぱいな……」

ミハル「あのお……まひろちゃん、今日は何か予定あるかな……」

まひろ「え、予定？ 予定って言われてもなあ……

……あ。……」ホーン！

……んーっとお、わたし、ちょっとお腹すいたかも……」

SE：キラキラ

ミハル「……！ じゃ、じゃあ、一緒にお昼なんてどう！？」

僕がなにか奢るから……！」（嬉しそう）

まひろモノ「やたっ！ 成功だ！ ふふ、ちょろいなこいつ。

しかしここは、敢えて一度引く……！」

まひろ「本当？ うーんでもでも、そんなの悪いよお」

ミハル「遠慮しないで！ ほら、早く行こー！」

まひろ「あっ、待って……」

まひろモノ「ふふ……これで好感度アップだ……！」

SE：移動。飲食店（酒場？）の雑踏 肉の焼ける音

ミハル「はい、どうぞ。ファイアドラゴンのステーキだよー！」

まひろ「おお肉だあ！ さすがは夢の中……（じゅるり……）
おっといけないいけない……」

……うわあ、ありがとー！ 美味しそうだねえ」

まひろ「いただきまーす！ はむはむ……んんんっ！

ミハルくん、良いお店知ってるね！」

ミハル「あはは、よかった。ここは素材が良いんだ。

知ってる？ ドラゴンは処女のお肉が一番美味しいんだって」

まひろモノ「おいおい、どこかで聞いたセリフだな……。

んん、……「うう、ううだー」

まひろ「しょ、処女……！？ もう、ミハルくん……恥ずかしいよ……。」

ミハル「……ハッ！

あ、いや、えと、あわわ、変なこと言ってるごめんね……！」

まひろモノ「ふふっ、赤くなってる……なんかかわいいかも……」

ミハル「あ……あのぉ、それで、今日この後なんだけど……」

まひろ「このあと？ ううん、そうだなあ……
折角リアルな夢なんだし……」

……あ、一緒に派手なモンスター討伐なんてどう？
他の仲間も呼んでさあ……」

ミハル「え、他の……」。

あ、あのっ！ もし良かったらだけど……
二人で、のんびり薬草採取のクエストとか……」

まひろ「……ふたりでっ」

まひろモノ「……ハッ！ こいつ……まさかオレに気があるんじゃない？
ど、どうしよ……」

ミハル「……だめ、かな……」(キラキラ)

まひろ「ううっ……！ む、むう……
……しょうがないじゃあ……いいよ。」(照れ)

まひろモノ「あ、あれー？ なんかこれ、逆じゃない……？」

SE：風の音、サラサラと流れる草の音

ミハル「んんっ……(背伸び)
良い天気だねえ。」

近くに他の冒険者もいないし、この辺にしようか」

まひろ「おお、これはメキメキ草！
ハイポーションの材料だよね。大漁だっ
むふー、これはこれで案外楽しいかも」

ミハル「はは、よかった。
……ん？ 見てみてまひろちゃん、
こっちに見たこと無い花があるよー！」

まひろ「どれどれ？ ほんとだ。……わ、なんか膨らんできたぞお」

SE：ぶくー、パン！

まひろ「うわあっ！ 爆発したあ！

ゲホ、ゲホゲホ、なんだこれ、胞子…？

ミハルくん、大丈夫！？」

ミハル「……………」

まひろ「……ミハル、くん？」

ミハル「まひろちゃん……僕……なんだか……変な気分……」

まひろ「……………へっ」

ミハル「キミを見ると……だんだん身体が熱くなって……」

まひろ「えっ……えっ！？」

SE：まひろの肩を抱く。戦闘っぱいBGM

ミハル「ふへ、ふへへ…」

まひろモノ「うわ~~~~~！ エロトラップだ~~~~！」

まひろ「ちょ、ちょっと、しっかりして、ミハルくん……」

SE：押し倒される

まひろ「きゃっー！」

ミハル「ねえ……いいでしょ……いいよね……！？」

まひろ「んふう、お、おい、ミハル！ あんっ！

だ、だめだめ、待って、あ、あ、あ——ッ……！」

夢から覚めてまひろの部屋に転換。

飛び起きる効果音などの演出。ガバッ

まひろ「助けて、みはり~~~~~！……！」

まひろ「……………はっ。

……はあ、はあ、はあ……

お……………恐ろしい夢だった……………。

うう……まさかオシが、エロゲのヒロイン側になるなんてえ…。」

まひろモノ「……でも、オチはともかくとして、

女の子になりきるのは結構楽しかったかも……。

長年のエロゲ攻略で培った経験だろうか、
むしろああいうの得意かもしれないぞ。

この才能をみはりだけに使うのは勿体ないなあ。
何か他にも役立てられないものか…」

まひろ「……そうだ、動画配信なんてどうだろう？
いや、エロいやつじゃなくて、なんかこう、アイドル的な……

うむ…人前は苦手だけど、直接誰かと会話するわけじゃないし、
この姿なら身元がバレるような心配もないし…。
それに……自分で言うのもなんだが、顔も可愛いし」

まひろ「……よし、ものは試しだ。ちょっとやってみるか。
うひひ、上手くいったら儲かるかも！」

SE：機材を設置し、ソフトを起動。カチッ

まひろ「カメラよし……マイクよし。もう映ってるのかな。
あーあー、ごほん」

まひろ「こ、こんにちは〜！ まひろです〜！
……なんちゃって……

……うひー！ 思ったより恥ずかしい……！
やっぱやめようかな……」

SE：ピロン（入場音）

まひろモノ「うわっ！ ホントに誰か入ってきちゃった！
どどどどうしよ……！」

まひろ「いい、いらっしや〜い……！
あ、コメント……

何年生……？ あー、ええーっとお……」ホン。

まひろはJCだよ〜〜！
う、うん。初めてだから緊張してます……

か、可愛いって！？ う、うへへ、なんか照れるな……」

SE：ピロンピロピロン

まひろモノ「わわっ、結構増えてきた……！

昼間だったのに、暇な奴らも居るもんだなあ……
世も末だ……って、人のことは言えないか」

まひろ「えーっと？ ふむふむ、趣味かあ……。
趣味はエロ……じゃなくて！
最近はMMORPGにハマってまーす！
まひろはヒーラーだよ〜。」

え、回復して欲しい？ みんな疲れてるんだねえ。
じゃあいくよー、ヒール〜！」

まひろモノ「あはは、よしよし、だんだん楽しくなってきたぞ！」

まひろ「みんなどんどん質問送ってね〜。

得意科目？ ほ、保健かな……。…（汗）

えー、踊るのは無理だよお。

歌は……。普通かなあ。今度歌ってみよっかな？

なにに、兄弟はいるのかって？ 悩ましい質問だな……。
んー、お姉ちゃんが居るよ。
あ、そうそう、この服もお姉ちゃんが選んでくれて〜。
胸元のリボンが可愛いよね。ほらここ！

……。え、もっと前屈みに……。？
なんで……。？ こうかな……。…」

SE：衣擦れ

まひろ「これでいいのー……。？

……。ん？ よく見えるって、何が……。…ハッ！」

まひろモノ「こ、こいつら……。計ったなあ……。！？」（恥）

まひろ「へ、変態どもめえ……。！

え、ご褒美です……。？

ばかー！

つ、つるぺた最高……。？

余計なお世話だ〜〜〜！（泣）」

まひろモノ「うっつ〜、なんだよこれ〜！

だんだん変な雰囲気になってきたぞ……

……。んおっ！？

なんか、視聴者数がすごい増えてる！

……。エロか！？ エロの力なのか！？」

SE：ポコン（新しいコメントが来た音）

まひろ「あ、まだコメント……」

……ふええー!? し、下も見せろってえ……!-?」

まひろモノ「そんなことできるか……!」

いや……男として、気持ちにはわかんなくてもないが……」

SE:ピロピロンピロピロピロン（入場音）

まひろモノ「うわわわ、どんどん人が増えてるし……!」

まひろ「……………み、みんな、ホントに見たいの……………」

SE:ピロロロロロ!（めっちゃ入場音）

まひろモノ「ヒィ……!う、ううう……ま、まあでも……

見せて滅るもんじゃないし……」

SE:……だんだん早まる鼓動スタート

まひろモノ「う、うん、これは一種の社会奉仕だ……………」

まひろ「じゃ、じゃあ……………」

ちょっとだけ……だよ……?」

SE:衣擦れの音。ドック、ドック……

まひろモノ「あ、ああ……………」見られちゃう……」

もうすべ……………みんな!……オシの……オシのお……………」

SE:ドクドクドクドク……ガチャッ（ドアが開く）

みはり「ただいま……!」

まひろ「……………ひゃんっ……!」

……も、も……お姉ちゃん!

勝手に入って来ちゃだめだよお……………」

みはり「お、お姉ちゃん!-?」

まひろモノ「ハッ……………! しまった、つい動画のノリで……………」

みはり「お姉ちゃん……………ふふ……………ふへへ……………」

まひろ「……………み、みはる?」

みはり「ごめんね〜まひろちゃん♥
何して遊んでたの〜?」

SE・まひろに近づき抱きつく。背中越しにPVCを見て

まひろ「むぎゅ……あっ、見ちゃだめ……!」

みはり「んー?モニターに私が映ってる……
『お姉ちゃんキター』『姉妹丼』……なにこれ?」

まひろ「は……配信……動画……」

みはり「……………へ?」

まひろ「ぜ、全国デビューだね〜……!」

みはり「!?! ……ま、まひろちゃん……?
お姉ちゃんちょっとな聞きたいことが……」(怒)

まひろ「ヒ、ヒエッ……!
……あっ! きよ、今日の配信はここまで〜……!」

SE・プン

まひろモノ「……この後、事の顛末を知られたオレは
みはりにこっぴどく叱られた。」

SE・お腹の音へー……

まひろ「……………あのー、みはりさん、そろそろご飯……」

みはり「悪い子はご飯抜きです!」

まひろ「そ、そんなあ……! う、ううー……
お、お姉ちゃん、まひろ、お腹すいたな〜」(キラキラ)

みはり「……………ううっ! い、いやいや……
もうその手には乗らないんだからね!」
まひろ「うええ〜、ごめんなさ〜いい!」

軽いBGM(シングル?)が入っておしまい。

■第3話『まひろとはじめてのおつかい』

まひろ「すー……すー……むじゅむじゅ……」（寝息）

SE：ドアが開き、みはりの掃除機の音が近づい

みはり「ふうふうふうん」（鼻歌）

SE：まひろの側まで来て掃除機OFF

みはり「ちょっとお兄ちゃん！ 掃除するからさっさとー！」

まひろ「んあぁっ……んーんー……すぴー……」

みはり「もっ、邪魔だってばっ！ー」

SE：ゆきゆき

まひろ「んん……あと五分……」

みはり「むう……」

SE：掃除機ON

みはり「えい」

SE：まひろを吸う。ズボボボ…

まひろ「うべべえええっ、吸うなっ！ー」

SE：掃除機OFF

みはり「目、覚めた？」

まひろ「はぁ……はぁ……な、なんてやつだ……
兄を「ミ」のように……」

みはり「「ミ」とまでは言わないけど……」。

ほら、起きたならどいて。
お布団片付けるんだから。よいしょ……んひゃっ！ー」
みはり「な、なにこれ、凄い濡れてる……
え……うそ、まさか、お兄ちゃん……！ー？」

まひろ「へ……うわっ、ホントだ……
……あっ、ち、違うぞ？ 違うって……」

えーと……ほら、これだ！
テーブルの上の飲みかけのジュース！
寝てる間に蹴って倒したみたい。えへへ……」

みはり「くんくん……確かにこれはオレンジの香り……ほっ……
……じゃなくて！
も……っ、また人の仕事増やして……！

もう怒ったわ……今日という今日は、許さないんだから！
ほら、こっちに来なさい！」

まひろ「ひっ……ひええ……っ！ ご勘弁……！」

SE…引きずられていくまひろ
外に放り出されて、玄関が閉まるガチャリ

まひろ「びえ……ん、外はやだ……っ、おうちに入れて……！」

みはり「ちよ、ちよっとやめてよお兄ちゃん！
ああ、ご近所の目が……
……もう、お遣い頼むだけでしょ！
汚したシーツのクリーニングと、ついでに買い物！」

まひろ「シーツくらい家で洗えよ……！」

みはり「染み抜きて結構大変なんだから……。
それに買い物してくれないと、晩ご飯の材料ないし」

まひろ「ううう……」

みはり「はい、それじゃあお財布と、これ、買い物メモ。
落とさないようにね」

まひろ「ほ、ほんとに行くの……？ 一人で……！？」

みはり「はい、頑張っ……！」

まひろ「みはりのオニ！ アクマ！ 自宅警備員虐待だ……！」

場面転換、外へ。効果音や間などで演出。

SE…とぼとぼと歩くまひろ

まひろ「はあ……まったくみはりのやつ……」

か弱い美少女を一人で放り出すなんて、
誘拐でもされたらどうするつもりだ……！

そのうえ晩飯を人質にするとはなんとむごい……
食べ物の恨みは怖いんだぞ……！

……ところで、クリーニング屋ってどこだっけ？」

かえで「あれっ？ まひろちゃんじゃーん！」（少し遠くから）

まひろ「ひょえっ！？ ……あ、かえでちゃん！」（嬉しそうに）

SE：駆け寄るかえで

かえで「どしたのー？ 今日は一人？ みはりは？」

まひろモノ「この子のかえでちゃん。

オレがこの姿になってから知り合ったみはりの友達だ。

派手な見た目とはうらはらに、
とてもしっかりした優しいお姉さんで……。

……いや、ホントは年下なんだけど」

まひろ「ええっと……」

オ……わたし、おつかい中で……」

かえで「おつかいって、その荷物？」

まひろ「う、うん、クリーニングに……ほら、シャツ汚しちゃって」

かえで「シャツって……ああー……」。

みはり酷いなあ、自分で行かせるなんて……」（小声）

まひろ「……？ どしたの？」

かえで「う、ううん！

あんまり触れないであげよ……」（小声）
……あ、でも、クリーニング屋さんなら
通り過ぎちゃってるけど……」

まひろ「へ……っ？」

かえで「あはは……んー、なんか心配だなあ。

仕方ない、お姉さんが付き合ってあげる」

まひろ「ほんとー？　ありがとうーかえでちゃん！」

SE：むにっ

まひろモノ「あ、顔にやわらかおっきいものが……？

って、うわあぁっ！　無意識に抱きついてしまったッ！」

SE：思わず離れるガバッ

まひろ「じ、じ、ごめんなさい……！」（焦）

かえで「……へ！？　なにが？　いーよいーよ。

ほら、手つないで、一緒に行こ」

まひろ「う、うん……」

SE：二人の足音。

まひろモノ「はあ、何故かかえでちゃんには、

自然と子供っぽく甘えちゃうんだよなあ……

恐るべきお姉ちゃんオーラだ……。

みはりも少しは見習って欲しいな」

かえで「あ、ほら、見えてきたよ」

SE：足音がフェードアウトして場面転換
クリーニング屋へ。

SE：自動ドアの音。

ドアがしまり、少し足音。

まひろ「ふうー、ミッション完了……」

かえで「はい、これしシートね。引き取るときに必要だから、
捨てちゃだめだよ。」

まひろ「うん、ありがとう〜」

かえで「あはは……

けどあのシートの汚れて、ジューズだったのね……」

まひろ「ん……？ ……あっ！

さっき店員さんとひそひそ話してたのって、そゆこと…？」

かえで「だってだって、自分で言うのは恥ずかしいだろうと思って…。
あたしも小さいとき、経験あるしさ…。」

まひろモノ「あ、あるんだ……。」

かえで「……さてと、それじゃあたしはこの辺で……。」

まひろ「え、かえでちゃん行っちゃうの？」

まひろモノ「ううー、この後の買い物にも付き合って欲しかったのに…。」

かえで「ん…ごめんねえ……

あたし今日はどうしても行きたいところがあった…。」

まひろ「……行きたいところ？」

かえで「あ、なんならまひろちゃんも一緒に来るっ。」

まひろ「……へ？」

場面転換、喫茶店へ。

SE：カランカラン……

店員「いらっしゃいませー」

まひろモノ「ここは……喫茶店？」

かえで「禁煙席ふたり、お願いしまーす」

店員「二名様ですね、こちらへどうぞ」

SE：少し歩き、かえで椅子に座る

かえで「……ふう。ほら、まひろちゃんも座って座って。」

まひろ「う、うん……。」

まひろモノ「な、なんだこれは……

デート？ デートなのか！？」

SE：まひろ椅子に座る

まひろ「で……なんで喫茶店？」

かえで「あはは……えっとね、

このお店、ケーキがすごく美味しいんだけど、
今日は開店記念日でスペシャルケーキが出るんだ。
もーどうしても食べたくってさー！」

まひろモノ「意外としょうもない理由だった……！」

かえで「まひろちゃんも一緒に食べよ。

おねーさんの奢りだよ。あ、みはりにはナイショね。」

まひろ「え、いいのー？」（パアッ！）

かえで「飲み物はどうするー？」

まひろ「待って待ってー！」

SE：メニューを開く

まひろモノ「どれどれ……ふーむ、コーヒーかあ。

ここは男らしくブラックと言いたいところだが……
普段飲まないからなあ……

なにに、アメリカン……ブラジル……「ロンビア……
な、なんだ？ どう違うんだ……？」

店員「ご注文はお決まりでしょうか？」

まひろ「……うえっ！？ あわわわ……」

かえで「ケーキセットふたつの……あたしブレンドでー」

まひろ「あ、えっと……「コー……コー……っ、
……コーラで」

まひろモノ「な、なさない……」（チーン……）

店員「……お待たせいたしました。スペシャルケーキセットです」

SE：テーブルに置かれる皿の音。カチャカチャ。

かえで「わあ、来た来たー！ 頂きまーす！
……んー、おいしー！」

まひろ「むぐむぐ……んー、あまーいー！」

かえで「あはは、気に入ってくれてよかった」

SE：コーヒークップを手に取り。

かえで「…………、ふう…………」（一口飲む）

SE：コーヒークップを置いて。

かえで「……で、みはりって、最近お家ではどんな感じ？」

まひろ「……もへ？（……ぐん）

みはり……お姉ちゃん？

むう…………。そりゃあもう酷いもんだよ。すげ怒るで

かえで「へー、みはりが？」

まひろ「今日なんて掃除機で吸われてさあ……

せっかく気持ちよく寝てたってのに…………」

かえで「なんだ、仲良いじゃん」

まひろ「え、いやいや、良くないよ！

とうとう家から追い出されちゃったし……

おつかい終わるまで帰ってくるなーって」

かえで「あはは……それは確かにちよっとキツいけど……

まあそれもまひろちゃんのためだと思うけどな。

ほら、可愛い子には旅をさせろー的な？」

まひろ「か、かわいい子…………？」

かえで「みはりは頑張ってると思うよ」。

大学で勉強しながら、今は家事も全部自分でやってるわけですよ。
偉いよねー」

まひろ「ま、まあ、それは…………」

かえで「あの子なんでも出来るように見えるけど、

あれでちゃんと努力してるんだから。

中学の時やってた陸上も、ちゃんと毎日朝練してたしね。

そうそう、実はお料理はあたしが教えてあげたんだー」

まひろ「え、そうなの？」

かえで「勉強してもらうつ代わりにね。それでも家庭的なんだから！
そこだけはみはりに負けてないと思うな！」

うーん、でもそのうち抜かれちゃうかも……。
あ、まひろちゃんはお料理しないの？」

まひろ「才、わたし？ わたしは……そういうのはちょっと……」

かえで「みはりに教えてもらうといいよー。

あとお掃除とかもね。きっと喜ぶと思うな」

まひろ「……………、う、うん……」

まひろモノ「みはり……。」

SE：まひろのコーラの氷の音が響く

かえで「んー、なんかいろいろ思い出してきたなあ……。

……あれ、そういえばみはり、お兄さんいたよね。

ああ、まひろちゃんのお兄さんでもあるのかな。

あたしは直接会ったことないんだけど……今どうしてるの？」

まひろ「……………へっ！？」

(コミカルなBGMで)

まひろ「お、お、お兄ちゃん！？ お兄ちゃんは……そのー……

あ、地方の……すごい立派な大学に入っ………(ぐさっ)

今は遠くで一人暮らしで………(ぐさっ)

まひろモノ「ううっ、心にダメージが……っ！」

まひろ「え、ええと、それで、あの……」

SE：慌ててうっかかりコップを倒す。

まひろ「うひゃーっ！ 冷たっ！」

かえで「わーっ、大変！ て、店員さん、タオルか何か……！」

店員「お客様、こちらを！」

かえで「あ、ありがとうございますー！

わー、スカートがびしょびしょ……

もー、大丈夫？ ほら、シミになるまえに……」

まひろ「……えっ！ かえでちゃん……！ そんなとこ拭いちゃ……
あっ、あっ、らめ~~~~！」（エコー）※「メディックに

（BGM止んで、店を出る二人）

店員「ありがとうございますー」

まひろ「……………うう……………足下が冷える……………」

かえで「あはは……………風邪引かないようにね……………」

まひろ「ごめんね、かえでちゃん……………」

まひろモノ「今日は水難の相でも出てるんだろうか……………」

SE：かえでの足音（振り返る感じ）

かえで「……………さてと。それじゃあ、あたし帰るね。

まひろちゃん、今日は付き合ってくれてありがとうー。
一人でちゃんと帰れる?」

まひろ「う、うん、大丈夫……………」

あ、ケーキ、ごちそうさま!」

かえで「いーよいーよ、また遊ぼうね。ばいばい」

SE：かえで去って行く

まひろ「かえでちゃん、やっぱり良い子だなあ……………」

はあ、オしもそろそろ帰るか。うう、気が重い……………」

場面転換、まひろの家に帰宅。

SE：玄関をあける

まひろ「……………ただいまー」

みはり「あ、お兄ちゃんおかえりー。どうだった?」

まひろ「……………ほれ、クリーニングのシート。これでいいんだろ?」

みはり「わあ、うんうん、やったあーえらーいーよしよし……………」

まひろ「うええ……………子供扱いすんなろ?」

みはり「ふふふ……………。それで、買いもののほうは?」

まひろ「……………へ？買い物？……………あっ」

みはり「あっ……………って、お兄ちゃん……………まさか……………」

まひろモノ「か、完全に忘れてた……………」

みはり「いやいやいや……………」

クリーニングだけでなんでこんな時間になるわけ……………？
も……………、どうするのぉ！ 晩ご飯作れないよぉ」

まひろ「こ、これは……………その……………あ、そうだ！

……………ほらー、おまえ、いつも食事中番で大変だろ？

たまには出前にして、休んで貰おうと思ってさ！
これでも……………感謝、してるんだぞ。」

みはり「……………！ お、お兄ちゃん……………」

……………って、そんな白々しい嘘で騙されたりしないけど……………
……………はぁ。まあいいか。

お兄ちゃんに頼んだ私も悪かったしね……………。

仕方ない、それじゃあ今日は、出前にしようかな」

まひろ「やったー！ ピザだー！」

みはり「お弁当ですー！」

まひろ「えー……………そんなぁ……………」

みはり「ちゃんと栄養取らないと、大きくなれないよ？」

まひろ「いやいや……………おまえが小さくしたんだろ……………」

(※このへんのやりとりフィードアウトさせながら次のモノローグを被せる感じで)

まひろモノ「感謝してるってのは、少し本当だけだ。

まあ、たまには家事も……………手伝ってやろう、かな？」

みはり「……………うわっ、よく見たらなんかスカート濡れてるし！

お、お兄ちゃん……………まさか……………今度こそ……………！？」

まひろ「だ……………か……………ら……………、違……………う……………っ……………て……………！……………！」

(おしまい)

■第4話『まひろと特別自宅警備』

まひろの部屋。

SE: まひろのお腹がなる。ぐぐぐぎゅるる……

まひろ「うああぐ……腹減った……」。

今日は昼メシ遅いなあ……もう2時過ぎちゃったぞ。

はっ、まさかまた兵糧攻め……昨日何か悪いことしたっけ……？
うう……さすがにもう我慢の限界だあ！」

SE: まひろ部屋のドアを開け、廊下をドタドタ進む

まひろ「みはりのやつ、部屋で寝てるんじゃないだろうな！」

SE: みはりの部屋のドアをバンと開けて

まひろ「おいみはり！オレのは……ん……」

みはり「はー……はー……ん……お兄……ちゃん……？」（うつろうつろ）

まひろ「あ……？」

あぐぐ、生理。わかる……」（同情）

SE: みはりがバツと起き上がって

みはり「風邪よ！ ……はう」

SE: ドサッと倒れる

まひろ「わぐぐ！ごめんー！

ほ、ほろーオレもこの前さ……

……って、そんなことより！ ……大丈夫かー？」

みはり「あ……はは……。んー……平気……」。

薬も飲んだし……寝てれば治るよ……」「ホッ

あ……お昼……ごめんね……」

リビングの戸棚に……カップ麺があるからさ……

今日はそれで我慢……ゲホッゲホゲホ」

まひろ「お……おい……」（汗）

みはり「ああ……ほら……うつしちゃうから……」

まひろ「う……うん……」

SE：ゆっくり扉を閉める

まひろ「……………みはり……………」

場面転換、リビング。

SE：カップ麺を探す。「こそこそ」

まひろ「あ、あった。カップ麺……………」

SE：湯を注ぐ音。

まひろ「……………」（神妙な面持ち）

まひろモノ「そういやあいつ、

「ほんとに実験とかで随分忙しそうにしてたっけ……………。
あんまり寝てないみたいだったし……………」

その上いつも通り家事までこなして……………」

一方オしは……………自由気ままのぐうたら三昧……………」

まひろ「う……うう……クズだ……………」

オしは……………「ゴミゴミの实のゴミ人間だぁ〜……………」

まひろ「……………よし」

SE：椅子からガタッと立ち上がる

まひろ「やるぞ……………やってやる！ 家事くらいなんだ！

せめてみはりの風邪が治るまでは兄貴らしく……………」

……………そう、これもいわば、自宅警備だ！」

SE：ジャキーン！

場面転換、脱衣所。

まひろ「……………さーて、最初は洗濯だな！

とりあえず……………全部洗濯乾燥機に放り込んで……………」

SE：洗濯機に洗い物を入れて扉を閉める（ドラム式です）

まひろ「えーっと、洗剤洗剤……………ん、なんかいっぱいあるな。

なになに……………漂白剤……………ふむ……………じゅう……………なん剤……………？

中性……………アルカリ性……………ま、混ぜるな危険……………？

……………うう……………じゃ、じゃあ……………よし、「しだ……………」

SE: ドップ、ドップ、ドップ… (計量せずボトルから直接)

まひろ「んー、これくらいでいいかな……?」

SE: ピッとスタート音、回り始める洗濯機

まひろ「ふうう。激しい戦いだった……」

SE: 移動、ガチャガチャと掃除機を用意する

まひろ「次は掃除だ！ さすがに掃除機は使えるぞ」

SE: 掃除機ON。ブォーン……

まひろ「~~~~~ (軽い鼻歌)」

まひろ「あ……そういやみはりの食事も必要だよな……。
風邪だし——うん、やっぱおかゆかな。
仕方ない、用意してやるか……」

SE: (掃除機OFF)

まひろ「……。どうやって作るんだ……?」

SE: スマホを取り出し電話かける。

かえで「はい、もしもーし！ まひろちゃん？ どしたのー?」

まひろ「あ……かえでちゃん……あの……今平気……?」

かえで「ん？ なになにー?」

まひろ「ええっと……お粥の作り方、教えて欲しくて……」

かえで「お粥ー? 超簡単だよ……!」

けどそれなら、みはりに教わるほうが……って、
あ、ひょっとしてあの子、風邪でも引いた?
大丈夫……? あたし作りいこっか?」

まひろ「え……ホントー?」

まひろモノ「助かった……! ……って……。
いやいや……これじゃあ結局いつもと一緒だ……!
今日のオしは……ひと味違っぞー!」

まひろ「……うん。今日は……自分で作ってみる」
かえで「！」

……うん、それがいいね。みはりきっと喜ぶよ。
じゃあ作り方だけどー、
そうだなあ、冷凍ご飯があれば早いんだけど……
無かったらまずはお米を洗って、水と一緒に鍋に入れて……
あ、水の量はお米に対して……」

(説明の途中でフェードアウト「水の量は」へらぐで完全OFF?)

場面転換、みはりの部屋 (みはり視点になります)

みはり「スー……スー……」 (寝息)

SE: ドアをノックする音。

みはり「……んん……、お兄ちゃん……?
なあにー……?」

SE: そっとドアを開ける音、食器の音。

まひろ「ほーらみはり、お粥、作ったぞ」

みはり「……………
へ……………」

SE: みはり思わず身体を起こす。

みはり「え……うそ……ー? お兄ちゃんが……ー?」

まひろ「あ……味は保証しないからな……ー!」

SE: 土鍋をそばの机に置き、茶碗によそう。

まひろ「……………ほこ」

みはり「……………ー う……………うえ……

うえええ~~~~ん……………」 (ちよつと子供っぽく)

まひろ「おおいー なんだよおー!」 (びっぴ)

みはり「ぐす……………ぐす……

だ…だってえ……………お兄ちゃんが……………はんっ……………」

まひろ「(照れ)……………いいから食べろ〜」

みはり「うんっ…いただきます…むっ…」

まひろ「むっ…むっ…」

みはり「……………味がないよぉ……………」

まひろ「あ、塩……

い、いや！ あれだ、塩分控えめってやつ」

みはり「量も多いし……………」（むっ…むっ…）

まひろ「うう……………」

みはり「でも嬉しい……………」

まひろ「……………あ、はは……………」

みはり「ふふ……………」

（小さく軽く笑い合う二人）

SE：レンゲがカチャリ。

みはり「……………ふう。」「ちそうさまあ。

……………お陰でちょっと元気でたかも」

まひろ「……………そっか。さーて、そんじゃあ……………」

服脱いで。」

みはり「……………はっ。

……………なななっ、なに急に！？」

兄妹でそんな……………！ いや、今は姉妹だけど……………」

まひろ「だれが姉妹だ！ ほら、後ろ向いて」

SE：モゾモゾ（服をたくし上げる）

みはり「う、うええっ……………！？」 うそっそ脱がすのー！？」

……………ひゃん……………あ、気持ちいい……………」

まひろ「汗かいてるだろ？ 背中拭いてやるよ」

SE：拭いてる音。

みはり「……………」
う……………」

まひろ「ええ…………だからなんで泣くんだあ！」

みはり「べす…………熱のせい…………！」

みはりモノ「もう、なんなの今日は…………調子狂っちゃうよ……………」

まひろ「まったく…………よし、こんなもんかな」

みはり「…………お兄ちゃんのケダモノ」

まひろ「そついつのいいです…………」

あ、前は自分で拭けよ。」

みはり「当たり前でしょ！
……………」

SE:…もぞもぞ（みはり身体をふる）

みはり「…………ふー。さっぱり…………」

ごめんね、なんか気を遣わせて……………」

SE:…みはり服を着る

まひろ「ま、まあ…………こういうときくらいはな…………」。

ほら、着替えたら早く横になれ。

暖かくしろよ。じゃあ…………電気消すぞ」

みはり「…………うん。

…………お兄ちゃん」

まひろ「んっ」

みはり「…………ありがとう」

まひろ「……………ん」（きまり悪そうに）

SE:…パチッと電気を消し、そっと出て行くまひろ

みはりモノ「ふう…………風邪に感謝しなくっちゃ。

なんだか少し、昔に戻ったみたい。

一緒に遊んでくれてた頃の、優しいお兄ちゃん…………」

まだまだ普段はダメ人間だけど……
最近は……前に比べて会話も増えたし……
やっぱり、女の子になったのをきっかけに、
いろいろ上手く回り始めた感じ……。

計画は……（ふわぁ……）正解、だった……かな……」（寝落ち）

場面転換。翌朝のリビング。

SE：朝の効果音。鳥の声とか。

みはり「お兄ちゃんおはようー！」

まひろ「お、もう平気なのか？」

みはり「ふふ、おかげさまでね。

ようし、じゃあさっそく

溜まった洗濯ものを片付けますか」

SE：歩いて行くみはり

まひろモノ「ふっふっふ……溜まってないんだなあそれが……

あいつ、また感激して泣いたりして……」

SE：（遠くで）洗濯機を開け、洗い物を取り出す音

みはり「……うえっくん！

大事なおしゃれ着が……色移りがあ……」

まひろモノ「……あ、あれえ？」

SE：怒の気味に歩いてくるみはり

みはり「……お兄ちゃん……？」（怒）

まひろ「はっ……はいっ……」（汗）

みはり「…………はぁ。

まだまだお嫁にはいけないね……」（優しく）

まひろ「いかんわー！」

まひろ「まったく……誰が嫁だ……って、

あの、オし、ホントに元の姿に戻れるんだよな……っ？」

みはり「んっ……」（少し考えるみはり）

……ねえお兄ちゃん、もし今元に戻ったらどうすんぞっ？」

まひろ「へ？ どうっておまえ……………（マジメな口調に）
そりゃあ……………うん、そうだな。まずは——」

やっぱ、朝から晩までエロゲ三昧——！

男の限界に挑戦だ——！」

みはり「……………（呆）……………はあ。

これはもうしばらく時間がかかりそう……………」

SE…去って行くみはり

まひろ「……………へっ？

……………あっ！ 今の無し！

「めん！ 待ってえ！

みはり……………！」

まひろナシ「はあ、やれやれ……………」

どうやらオシの女の子生活は、まだしばらく続きそうだ」

（おしまい）